

## ●●●道徳教育の更なる充実に向けて●●●

教育庁指導部 義務教育指導課長 市川 茂

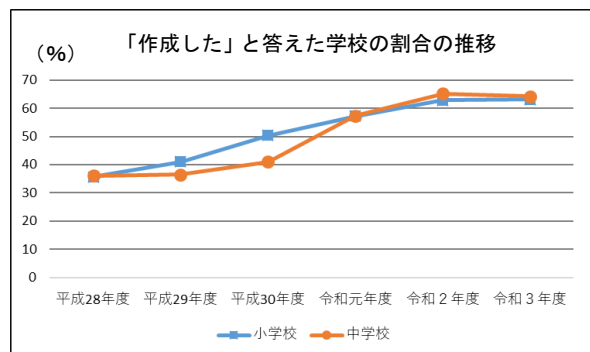
私見になりますが、東京都の小中学校における道徳教育は、全国に誇れるものと思っています。各学校では、道徳科の授業を適正且つ効果的に実施されているほか、道徳授業地区公開講座を毎年開催していただいています。また、都教育委員会においても、都独自の教材集の作成・配布、年間6回の授業力向上セミナーの実施など、様々な取組を進めています。

このような中、注目したいデータがあります。都教育委員会では、毎年「道徳教育推進状況調査」を実施しています。その中に「貴校では、道徳教育の全体計画の『別葉』を作成しましたか」という設問があり、その回答結果は右のグラフのように推移しています。

「別葉」は、作成が義務付けられていませんが、教育活動全体を通じてどのように道徳教育を進めていくかを具体的に示すものであり、道徳科はもちろんのこと、他の教科や特別活動、総合的な学習の時間等において、関連を図りながら取り組んでいくための土台となるものです。

令和3年度は、小中学校ともに平成28年度に比べて20ポイント以上増加しています。しかし、見方を変えてみると、残念なことに令和3年度においても、小中学校の約3分の1では「別葉」が作成されていないことがわかります。

「別葉」の意義を改めて校内の先生方で共有・確認していただき、各学校での作成及び活用をお願いいたします。



### 掲載内容

- 「令和4年度『特別の教科 道徳』授業力向上セミナー」について
- 「令和4年度 東京都小学生科学展」の作品から ～結果の処理について～
- カーボンハーフスタイル推進資料
- 「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための授業力向上セミナー」について
- 令和4年度 学校文化行事 第72回東京都公立学校美術展覧会について

### ・東京都教育委員会のホームページ内「学びの支援サイト」

児童・生徒の学びを支援する情報を紹介しています。



### ・メール・マガジン「Scrum—スクラム—」

最新号やバックナンバーは、こちらに掲載しています。

(URL [https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/mail\\_magazine\\_scrum.html](https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/document/mail_magazine_scrum.html))



### ・YouTube内「義務教育指導課チャンネル」

「令和4年度 就学前教育カンファレンス」に係る動画等を掲載しています。

(URL <https://www.youtube.com/channel/UC0dZqHZ8PVXmLFmMYKDBC4A>)



★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御記入いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

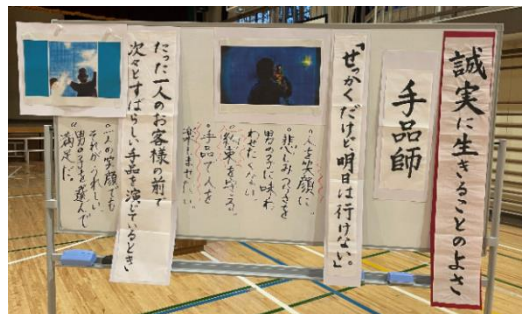
## 「令和4年度『特別の教科 道徳』授業力向上セミナー」について

子供たちの豊かな心を着実に育む道徳科授業の充実に向けて、『特別の教科 道徳』授業力向上セミナーを実施いたしました。本セミナーでは、東京都道徳教育推進委員による授業公開と協議を通して、参加者が道徳科の指導の工夫や評価の在り方等についての理解を深められるようにしています。

今年度は、小・中学校それぞれ3回ずつ実施し、およそ280名の先生方に御参加いただきました。ここでは、今年度実施したセミナーの一部について紹介します。

【令和4年11月1日（火曜日）】（小学校・学校での授業公開）

- 1 主題名 「誠実に生きることのよさ」  
（内容項目 A 正直・誠実）
- 2 ねらい 誠実に行動し、真心を込めて、明るい心で楽しく生活をしようとする心情を育てる。
- 3 教材 「手品師」（「小学校道徳の指導資料とその利用1」文部省（昭和51年3月））



#### 4 指導の工夫（一部）

- ・ 道徳的価値に関する学習のねらいを示し、学習への問題意識を高め、児童が道徳的価値に自我関与できるようにする。
- ・ 教材提示にプレゼンテーションソフトを使用し、画像を見せながら語り聞かせることで、児童が教材文の内容を理解しやすいようにする。
- ・ 手品師の心の葛藤から「男の子との約束」を選んだことについて深く考えることで、男の子への誠実さだけでなく、自分の良心に対する誠実さについて気づき、そのすがすがしさに共感させることで、誠実に生きることの大切さを考えさせる。

#### 5 受講者のアンケートより（一部抜粋）

- ・ 自分のこととして考えることと登場人物の考えに思いを寄せることの違いがよく分かった。
- ・ 自分が授業したときには、考えつかない角度での発問で驚いた。また、場面絵のスライドは引き込まれた。機会があればやってみたい。
- ・ まとめで校長先生がおっしゃっていた道徳の授業づくりは学級づくりにつながっているという話は、まさに授業者の先生の学級づくりそのものだと感じた。

【令和4年11月9日（水曜日）】（中学校・動画での授業公開）

- 1 主題名 「お互いが支え合う社会を目指して」  
（内容項目 C 社会参画・公共の精神）
- 2 ねらい よりよい社会を築くためには、お互いの支え合いの大切さに気付くことを通じて、自らも社会参画をしようとする実践意欲を育てる。
- 3 教材 「加山さんの願い」（「道徳教育推進指導資料（指導の手引）4」文部省（平成6年3月））

#### 4 指導の工夫（一部）

- ・ 内容項目の道徳的価値について整理して授業展開を計画することで、授業のねらいに含まれる道徳的価値を基に、生徒が考えを深めることができるようにする。
- ・ なぜ加山さんの気持ちが変わったのか、変わったことがその後の加山さんの生き方にどんな影響を与えたのかを発問を通して考えさせ、授業のねらいに迫ることができるようにする。

#### 5 受講者のアンケートより（一部抜粋）

- ・ 人から手伝ってもらったことが多かった生徒が、自分も誰かを手伝ったり、役割を果たせたりできるときに、自主性が生まれ成長する姿が見られる。模範授業では、手伝ってあげる、という考えや、手伝ってもらってばかりいることで傷つくこともある、と生徒が考えを深めていて、自分の学校の生徒と重なり、私自身の考えも深まった。このように気づきがたくさんある授業を、今後展開できるように精進していきたい。
- ・ 内容項目の道徳的価値について教員が見解を深めることの大切さを改めて感じた。教材研究する上で、生徒たちが活発に意見を出せる発問を工夫することが重要だと、今日の授業動画を見て実感した。

生徒のワークシートの記述より（一部）  
「傘を持ったまま、加山さんは何を考えていたのだろう。」

- ・ 田中さんば、なんでつらそうなのだろう。
- ・ 加山さんはボランティアとして自主的にしているのに、田中さんは、加山さんがいやいややっていると感じていると思った。
- ・ 田中さんに心をひらいてもらいたい。

「同じ社会に生きる人同士が、よりよく生きるために必要なこと何か。」

- ・ 同じ立場に立って接する。
- ・ 遠慮しないし、させないようにする。
- ・ 相手の話を聞くだけでなく、自分の話もする。
- ・ 相手のことを知ったうえで、互いの気持ちを尊重する。

授業で印象に残ったこと

- ・ 同じ立場に立って接することの大切さに気が付いた。相手を尊重していきたい。

# 「令和4年度 東京都小学生科学展」の作品から ～結果の処理について～

理科の学習では、「児童が関心や意欲をもって対象と関わることにより、自ら問題を見だし、それを追究していく活動を行うとともに、見出した問題を追究し、解決していく中で、新たな問題を見だし、繰り返し自然の事物・現象に関わっていくこと」が大切です。今回は、東京都知事賞・東京都教育委員会賞に選ばれた6作品について、「結果の処理」に焦点を当てて、紹介します。児童への「結果の処理」の指導に御活用ください。

| <p><b>ダンゴムシとワラジムシの生き残り作戦</b></p> <p>研究の動機<br/>ダンゴムシを育て、石を積み上げる。一周に定めてワラジムシの移動距離を測定。全てのワラジムシの移動距離を平均して、ワラジムシの移動距離を比較する。ワラジムシの移動距離を比較する。ワラジムシの移動距離を比較する。</p> <p>結果① 1. 逃げ足の速さ比較</p>  | <p>東京都知事賞 港区立青南小学校 第6学年児童</p> <p>「ダンゴムシとワラジムシの生き残り作戦」</p> <p>同じような環境に生息しているダンゴムシとワラジムシは、生き残るためにどちらが有利なのか、それぞれの能力に焦点を当てて追究を繰り返しました。結果の処理では、実験結果を○や×、記号等を使って表にまとめ、一目で結果が分かるように工夫しています。</p>              |     |     |     |     |     |    |   |   |   |   |   |   |
|--|---|-----|-----|-----|-----|-----|----|---|---|---|---|---|---|
| <p><b>「3秒ルール」って、本当に大丈夫？</b></p> <p>= 小学校の謎ルールを科学的に確かめる =</p> <p>培養2日目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>培養2日目</th> <th>A地点</th> <th>B地点</th> <th>C地点</th> <th>D地点</th> <th>E地点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1秒</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> | 培養2日目   | A地点 | B地点 | C地点 | D地点 | E地点 | 1秒 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | <p>東京都教育委員会賞 台東区立石浜小学校 第6学年児童</p> <p>「『3秒ルール』って、本当に大丈夫？=小学校の謎ルールを科学的に確かめる=」</p> <p>食べ物を落としても3秒以内に拾って食べれば大丈夫という「3秒ルール」の根拠について、寒天培地を使って追究しました。結果の処理では、菌の繁殖状況を撮影し、写真を使って表にまとめるなど、分かりやすくなるように工夫しています。</p> |
| 培養2日目  | A地点   | B地点 | C地点 | D地点 | E地点 |     |    |   |   |   |   |   |   |
| 1秒   | ○   | ○   | ○   | ○   | ○   |     |    |   |   |   |   |   |   |
| <p><b>日本の川と砂鉄の分布について</b></p> <p>～6年間の川の研究からわかったこと～</p> <p>研究の動機<br/>東北から関東地方の川の砂鉄を2年間調べる中で地域差はあまりないのでは？と疑問を抱いた。全国的な見地から、今までは火山が流る地域の川を</p>   | <p>東京都教育委員会賞 北区立王子第二小学校 第6学年児童</p> <p>「日本の川と砂鉄の分布について～6年間の川の研究からわかったこと～」</p> <p>日本各地の川原に堆積した砂の中に砂鉄がどれだけ含まれているのか、日本の川と砂鉄の分布について追究しました。結果の処理では、日本地図の中に棒グラフを用いてまとめることで、川の位置と砂鉄の量が同時に分かるように工夫しています。</p>   |     |     |     |     |     |    |   |   |   |   |   |   |
| <p><b>その一歩は本当に安全か</b></p> <p>～転ぶ・転ばないの境界を探せ～</p> <p>実験の動機<br/>僕は4年生、5年生と続けて摩擦力の大きさを自由研究として研究し、滑りやすい材質、滑りにくい接地面の形を研究してきた。</p> <p>グラフ1<br/>スリッパ</p>  | <p>東京都教育委員会賞 小金井市立緑小学校 第6学年児童</p> <p>「その一歩は本当に安全か～転ぶ・転ばないの境界を探せ～」</p> <p>どのように地面に着地すれば転ばないのか、地面と着地するときの足の角度に焦点を当て、実験道具を自作して追究しました。結果の処理では、表にまとめたことをグラフにする際に、棒グラフと折れ線グラフを目的に合わせて使い分けています。</p>          |     |     |     |     |     |    |   |   |   |   |   |   |
| <p><b>四角すい万華鏡が球に見えるのはなぜ？</b></p> <p>1. 研究の動機<br/>私は万華鏡が小さい時から大好きです。鏡面に万華鏡が映るキットで楽しんでいたが、鏡の形でも作ってみたいかなと色んな形を制作してみた。すると、三角すいや四角すいは、鏡像が球になることに気が付いた。どうして鏡が反射だけで球になるのか不思議に思い、研究することにした。</p>  | <p>東京都教育委員会賞 国分寺市立第二小学校 第6学年児童</p> <p>「四角すい万華鏡が球に見えるのはなぜ？」</p> <p>三角錐や四角錐の万華鏡では、鏡像が球になるのがなぜか、万華鏡の内部を再現したり、紙を使って3Dモデルを作成したりして追究しました。結果の処理では、撮影した写真データに書き込みを入れるなど、分かりやすくなるように工夫しています。</p>               |     |     |     |     |     |    |   |   |   |   |   |   |
| <p><b>秋川下流域の鳥類相とその増減について</b></p> <p>4. まとめと考察<br/>表1～3の10年以上と最近3年の観察記録を比較すると、野鳥の種類が大きく減り、全体では2割程度減少していました。表1～3をもとに、データを表2～4にまとめました。産卵の区分(図2)で比較すると、冬鳥が著しく減っていることが分かりました。さらに目録(図3)で調べてみると、ツドドリやカモ目などの水鳥であるツドドリ、カモなどが大幅に減っていることも分かりました。これらの鳥は川原・湿地・干渉・池を好む鳥です。野鳥の半分以上は産卵の、繁殖地(図4)を見たとすると、川での水鳥数が著しく減少したことが明確で</p>  | <p>東京都教育委員会賞 あきる野市立前田小学校 第5学年児童</p> <p>「秋川下流域の鳥類相とその増減について」</p> <p>秋川に生息している野鳥の数・種類は減っているのかについて、1年間、野鳥の観察を続けて、追究しました。結果の処理では、グラフにまとめる際に、10年前のデータと3年以内のデータが比較しやすくなるように並べて表示したり・色を変えたりするなど、工夫しています。</p> |     |     |     |     |     |    |   |   |   |   |   |   |

※作品の画像は、一部作品中の順番を入れ替えています。

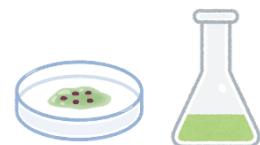
## ○「令和4年度 東京都小学生科学展」について

**展示期間** 令和5年1月6日(金曜日)～9日(月曜日・祝日)

**場 所** 日本科学未来館 7階(江東区青海2-3-6)

**時 間** 午前10時から午後5時まで(最終受付午後4時30分)

- ・ 東京都小学生科学展のみの入場は無料です。予約も必要ありません。
- ・ 区市町村及び都立学校ごとに代表となった作品65点を展示します。
- ・ 代表児童は、展示期間中の1月7日(土曜日)から1月9日(月曜日・祝日)までのいずれかの日のうち、一人一回10分程度の発表を行う予定です。
- ・ 今後の新型コロナウイルス感染症の拡大の状況等によっては、口頭発表の中止など、実施方法を変更する場合があります。



## カーボンハーフスタイル推進資料

「脱炭素」という世界共通のゴールに向けて、自然環境や地域、地球規模の諸課題等の環境保全に関する具体的な内容を推進資料として示し、児童・生徒に、環境に対する豊かな感受性や探究心、環境に関する思考力や判断力、環境に働きかける実践力など、持続可能な社会を構築していくための資質・能力の育成を図ることを目的として、カーボンハーフスタイル推進資料を作成し、都内公立小学校・中学校・高等学校等に配布しています。

東京都は、2030年までに温室効果ガス排出量を50%削減（2000年比）する、「カーボンハーフ」を表明するとともに、この実現に向けて、2019年に策定・公表した「ゼロエミッション東京」をアップデートし、取組を加速させています。

また、2030年カーボンハーフに向けて必要な社会変革の姿・ビジョンとして、「2030・カーボンハーフスタイル」を提起しています。

### ○ カーボンハーフスタイル推進資料の特徴

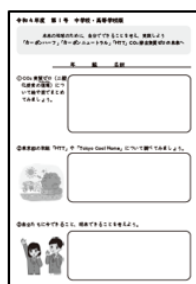
- ・ 教材、ワークシート、指導資料を作成して、紙資料及びデータを送付
- ・ 授業で電子黒板等に提示できるよう、図表の電子データをホームページ上で公開
- ・ 小学校低学年版、小学校中学年版、小学校高学年版、中学校・高等学校版の4種類を作成
- ・ 注目されている環境問題を取り上げた内容構成
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の授業展開となる学習指導案を作成
- ・ 一人1台端末を活用した授業が展開できるように、二次元コードを掲載

### ○ 第1号「『カーボンハーフ』『カーボンニュートラル』『HTT』」

【カーボンハーフスタイル推進資料 中学校・高等学校版】



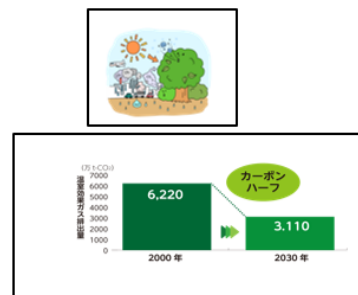
教材



ワークシート



指導資料



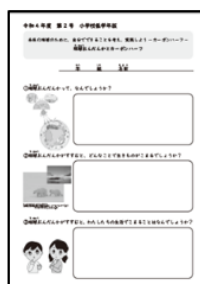
図表等

### ○ 第2号「地球温暖化とカーボンハーフ」

【カーボンハーフスタイル推進資料 中学校・高等学校版】



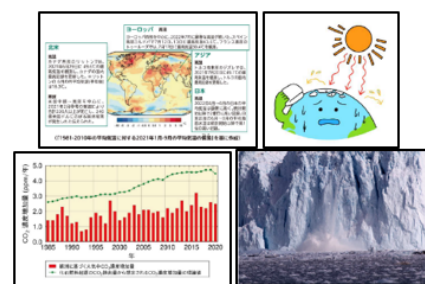
教材



ワークシート



指導資料



図表等

### ○ 第3号

第3号は、2月中旬に東京都教育委員会のホームページに掲載予定です。

「カーボンハーフスタイル推進教育事業」や「環境教育」の資料は、東京都教育委員会のホームページに掲載しています。

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/environment/index.html>



## 「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための授業力向上セミナー」について

英語科の「指導と評価の一体化」に向けた授業改善の充実のため、「生徒の英語によるパフォーマンスを高めるための授業力向上セミナー」を実施いたしました。映像を視聴する形式での授業公開や講師による講話等を通して、参加者が指導の工夫や評価の在り方等についての理解を深められるようにしています。

今年度は既に第1回セミナーを実施し、155名の先生方に御参加いただきました。ここでは、第1回セミナーの一部について紹介します。

### 第1回セミナー授業者の発表から（中野区立中野東中学校 井上 指導教諭の実践）

「書くこと」をテーマに発表を行った井上指導教諭の実践から、段階的な Writing の指導に関する事例を紹介します。単元の目標に向かって少しずつできることを増やしていく指導の過程について、以下の内容を御参考ください。

#### ◆ 段階的な Writing の指導（全6時間）

「書くこと」においては、**単元を通じて繰り返し**、自分の考えや気持ちを書く活動に取り組みることが大切です。また、最初はモデル文などを参考にして限定された範囲で英文を書くこと（Controlled Writing）から、徐々に内容や使用する表現等を自分で考えて英文を書くこと（Free Writing）に進ませるなど、**段階的に生徒が書ける内容を広げたり深めたりしていけるよう**、活動を配置していきましょう。

| 時間  | 学習活動   | Writing の例  |
|---|--|---|
| 第1時<br>Controlled Writing                   | モデル文の構成を参考に英文を書く。                              | There is a shopping mall in Nakano.<br>It's Nakano Broadway.<br>You can enjoy shopping there.   |
| 第2時<br>Controlled Writing                   | 「話すこと[やり取り]」の言語活動で使った表現を用いて、第1時で書いた英文に情報を追記する。 | There is a shopping mall in Nakano.<br>It's Nakano Broadway.<br>You can enjoy shopping there.<br>You can go there by bus from here.   |
| 第3・4時<br>Controlled Writing<br>Free Writing | 教科書の本文を参考に英文を書く。<br>自分で情報を付け加える。               | (教科書の登場人物になりきり、オペラハウスを紹介する)<br>Look at this picture.<br>There is a famous place in Sydney.<br>It's the Opera House.<br>It's so beautiful.<br>You can enjoy music concerts there.  |
| 第5・6時<br>Free Writing                       | 伝える内容・使用する語彙や表現ともに自分で考えて英文を書く。                 | (おすすめの海外旅行プランを考え、メール文を作成する)<br>Hello, Ben!<br>I recommend China.<br>You can go there by plane.<br>There is a very long great wall in China.<br>It's Great Wall.<br>It's a World Heritage Site.<br>China is famous for sports.<br>Running is especially popular.<br>You can enjoy Chinese food.<br>Have a nice trip. |

#### ◆ 参加者のアンケートより（一部抜粋）

- 授業実践を映像で視聴できたことで、取組を具体的にイメージすることができました。
- 「書くこと」について、授業映像や協議を通して改めて考えることができました。明日からの指導にすぐに生かしていきたいものがたくさんありました。
- 「書くこと」の評価に少し不安がありましたが、本研修を受けて理解が深まりました。
- 「書くこと」への目的を明確にすることが大切だと改めて感じました。

#### 今後の実施予定

|             |   |
|-------------|---|
| 第2回<br>(予定) | 日 時：12月20日（火曜日）午後2時から午後4時30分<br>テーマ：「話すこと[やり取り]」、デジタル教科書・ICTの活用 |
| 第3回<br>(予定) | 日 時：1月25日（水曜日）午後2時から午後4時30分<br>テーマ：「話すこと[発表]」、学習の見直しと振り返り       |

※第2回・第3回セミナーへの申込みは既に終了しております。

# 令和4年度 学校文化行事 第72回東京都公立学校美術展覧会について

東京都教育委員会ではこれまで、学校文化行事として東京都公立学校美術展覧会を開催してまいりました。本展覧会は今年度で第72回となります。

昨年度、一昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、やむを得ず開催中止といたしましたが、今年度は、感染症対策を講じた上で実施いたします。

## 1 会期等について

令和4年度 学校文化行事

# 第72回 東京都 公立学校 美術展覧会

- 会期  
令和5年2月14日(火曜日)から  
令和5年2月19日(日曜日)まで
- 開場時間  
午前9時30分から  
午後5時30分まで  
(入場は午後5時まで)  
※最終日の2月19日(日曜日)の開場時間は  
正午まで(入場は11時30分まで)  
となります。御注意ください。
- 会場  
東京都美術館

## 2 作品について

- 校種：小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校
- 教科：図画工作、美術、工芸、家庭、技術・家庭、書写

今年度は、感染症拡大防止の観点から、展示方法等を以下のとおりとします。

- ◆ 例年よりも作品数を減らして展示します。
- ◆ 地区と地区の展示スペースの間に例年よりも広く間隔を設けて展示します。
- ◆ 工芸台を使用する教科は中学校技術・家庭(技術分野)及び高等学校工芸のみとし、他校種・教科においては、平面作品及び壁面に展示できる立体・半立体作品を壁面に展示します。

## 3 会場までのアクセス

- JR 上野駅(公園口) 徒歩7分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線  
上野駅(7番出口) 徒歩10分
- 京成線 京成上野駅 徒歩10分

